

『こんにちは県議会です』伊那市」開催概要

- 1 開催日時 平成30年10月30日（火）午後1時30分から午後3時30分
- 2 開催場所 伊那市防災コミュニティセンター 多目的ホール
- 3 出席者
 - 活力ある地域をめざし取り組んでいる団体の皆様
農事組合法人山室、高遠第2第3保育園と地域の未来を考える会
新山定住促進協議会、諏訪形区を災害から守る委員会
 - 鈴木 清議長、小林東一郎副議長
 - 広報委員
酒井 茂議員、堀場秀孝議員、小山仁志議員、山口典久議員、高島陽子議員
 - 地元議員
向山公人議員、佐々木祥二議員、垣内基良議員、小林伸陽議員
- 4 意見交換テーマ 「活力ある地域をめざした取組について」
- 5 開催内容
取組事例発表、グループ毎による意見交換・懇談
- 6 出席者 59名（議員11名、参加団体19名、傍聴者29名）



○開会

(司会：小林副議長)

本日は皆様お集まりをいただきましてありがとうございます。

ただいまから、「こんにちは県議会です」伊那市を始めたいと思います。

本日の進行を務めます長野県議会で広報委員長の小林東一郎でございます。よろしくお願いいたします。

それでは、長野県議会を代表いたしまして、鈴木清長野県議会議長から挨拶及び県政報告を申し上げます。

○あいさつ・県政報告

(鈴木議長)

皆さんこんにちは。議長の鈴木清と申します。

御多用な時期にもかかわらず、大勢の皆さんに御参加いただき、ありがとうございます。心から御礼を申し上げたいと思います。

本日は、私、小林東一郎副議長、また地元の県議会議員の皆さんとともに、ここ伊那市にお伺いしました。

開催に当たりましては、伊那市の皆様の御協力を賜りましたことについて、この場をお借りし、厚く御礼申し上げます。よろしくお願いいたします。

開催に先立ちまして、若干最近の県政報告を申し上げたいと思います。県下の状況も含めて御報告申し上げますが、しばらく御清聴いただければと思います。

8月の知事選後初めてとなる9月定例議会が9月26日から開催されまして、知事からは、豪雨や台風による災害の復旧のための事業費や今夏の猛暑を受けての県立学校への冷房設備の設置に要する経費などを盛り込んだ一般会計補正予算案や県税条例の一部を改正する条例案などの議案が提出されました。

本会議では、3期目を迎える阿部知事の県政運営方針などを中心に活発な議論が行われました。

議員からは、選挙公約の実現に向けた取り組みや、今回選挙法が改正になりまして初めての10代の若者たちの期待にどのように応えていくのかなどについて質問がなされました。

知事からは、速やかに取り組みたい政策課題について政策パッケージとして示し、今回の補正予算でも一部を実現し、遅くとも年内に着手したいとの答弁がありました。

また、7月の豪雨や相次ぐ台風による被害、北海道での地震などを踏まえ、大規模な災害に対する防災施設や避難所の整備、電力の確保など今後の取り組みについてや県立学校への冷房設備の設置、高校改革への取り組み状況など多岐にわたり議論が交わされたところであります。

議会といたしましては、知事が仕事をしっかりしているか注視するとともに、本日のような機会を通じて把握した県民の皆様の声を率直に県政に届けてまいりたいと考えているわけであります。

毎定例会後に概要などを掲載する広報紙を作成してございますが、9月定例会分については11月中旬に作成し、新聞折り込みの方法で皆様にお届けする予定であります。

参考までに6月定例会の広報紙をお手元にお配りしてございますので、御覧いただければと思います。

さて、「こんにちは県議会です」が、本日の「こんにちは県議会です」では伊那市を中心に御活躍されている団体の皆様から活動状況を事例発表していただくとともに、それぞれ抱えている課題や県全体への波及などについてグループごとに議員と意見交換させていただきたいと考えております。

皆様からは忌憚のない御意見をいただき、有意義な意見交換となるよう御協力をお願い申し上げまして、挨拶とさせていただきます。

なお、肩の力を抜いていただいて、自由闊達にひとつ広範なメニューを出していただくことが私どもの県政の取り組みを下支えになると思っておりますので、御協力のほどよろしくお願い申し上げます。

ちょっと長過ぎましたが、ありがとうございました。

○出席議員自己紹介

(小林副議長)

それでは、本日の出席議員から自己紹介をいたします。

酒井議員から座席順にお願いいたします。

(酒井議員)

皆さんこんにちは、議会広報委員会副委員長、伊那市選出の酒井茂でございます。よろしくお願いいたします。

(堀場議員)

皆さんこんにちは。上田市小県郡選出の堀場秀孝と申します。よろしくお願いいたします。

(小山議員)

佐久市北佐久郡選出の小山仁志と申します。よろしくお願いいたします。

(山口議員)

長野市選出の山口典久と言います。よろしくお願いいたします。

(高島議員)

こんにちは。同じく長野市選出の高島陽子と申します。よろしくお願いいたします。

(向山議員)

伊那市選出の向山公人です。よろしくお願いいたします。

(佐々木議員)

こんにちは。駒ヶ根市選出の佐々木祥二でございます。よろしくお願いいたします。

(小林伸陽議員)

上伊那郡区箕輪の小林伸陽です。よろしくお願いいたします。

(垣内議員)

上伊那郡区辰野の垣内です。どうぞよろしくお願いいたします。

(小林副議長)

本日の出席議員は以上であります。

本日御参加いただいた伊那市各団体の皆様につきましては、恐れ入りますが、お手元の出席者名簿の配布により御紹介に代えさせていただきたいと存じます。

本日の「こんにちはは県議会です」が、日ごろ伊那市を中心に活動に取り組む方々から取り組み事例の発表をいただき、それらを踏まえて意見交換を行うことで地域の取り組みを把握し、今後の議会活動に生かしていくということ、あわせて県議会を身近に感じていただきたいという趣旨で開催するものであります。

なお、広く県民の皆様にご報告するために、本日の概要については、発言内容及び映像を後日県議会のホームページに掲載させていただきますので、よろしくお願いいたします。

続きまして、本来であれば、伊那市の林副市長様から御挨拶をいただくことになっておりましたが、所用が重なり到着が遅れるとの連絡が入っておりますので、到着次第御挨拶をいただくこととして、先に進めさせていただきたいと思っております。

それでは、各議員は、グループ討議を担当する団体のテーブルにそれぞれ移動をお願いいたします。

○取組事例発表

(小林副議長)

では、ただいまから本日御参加いただきました各団体の皆様から、取り組み事例などの発表をお願いいたします。

活力ある地域づくりに向けて現在の活動状況、工夫しておられること、また、課題や今後どのようにしていくかなどのお話をいただければと思います。

進行の都合上恐れ入りますが、1団体5分程度でお願いいたします。

まず、農事組合法人山室 代表理事 大塚治男様、お願いいたします。

(農事組合法人山室代表理事)

皆様こんにちは。農事組合法人山室の代表をしております大塚と申します。

本日はこのような席にお招きいただき、私どもグループの宣伝をさせていただくということで、大変ありがたいと思うところがございます。

それでは、農事組合法人山室という団体でございますが、平成17年10月に設置されています。伊那市では2番目の法人ということになります。

中山間、この写真が私どもの地域でございますが、中山間で山深いとは言っても、高遠のまちから車で15分ちょっとの非常にアクセスのいいところでございます。

品目が水稻、小麦、そば、野菜を複合経営しています。

ここで農業を行う上に、地域の悩みということが一つ出てきてまして、高齢化による農業者の減少、慢性的な労働力不足、こういったことで、だんだん住んでいる方々の気持ちが過疎になっていく、これが一番悩みでございます。

一方、地域にも強みがございますが、豊かな自然環境、水源となる川、源流に近い、ミネラルが豊富である。農産物は手前みそかもしれませんけれども、おいしい、これが一つの強みである。そういった強みをもとに、山室の戦略というのを立てました。

まず、今の価値を認めよう。それでそういったものを認めた上で、地域を維持していくことを考えましょう。もう一つは、豊かな自然環境を生かして、田舎そのものを商品化して実現させていこう。そういったことを通じて、慌てず、無理なく新しいものを取り入れながら、地域を発展させていこう。そのために地域の人たちに何らかの形で農業に携わっていただけるという仕組みをつくっていこうということがございます。

それから、3番目は観光地ではなくて、一過性の賑わいではなく、未来永劫存続していける田舎を目指したい。底力のある地域を目指していこうというのが戦略としてございます。

経営基盤、時間がないものですから、この辺は資料を御覧いただきたいと思えます。

経営基盤強化の中でも、今後スマート農業というのがございまして、そういったものをどんどん取り入れていく。私たちの地域がまず情報戦略、ICTを通じた情報戦略を今後取り入れていこうという考え方がございます。

そういった地域をつくっていく上で、私どもの地域には休眠状態にある組織がいっぱいあります。そういった組織をもう1回エンジンをかけ直して活性化して、お互いに連携しながら地域の中を守っていこうという位置づけで、これは「いもり会」といって、私どもの農作業に協力してくれる非農家の人たちの団体でございます。それに作業委託、畦畔の管理、ひいては機械のオペレーターまで今後お願いしていきたい。

それから、米づくり研究会、私ども水稻と申しましたけれども、酒米を主につくっております。そういったものをベースにして、商品化して地域のブランド化を図りたい。

それと市民農園、これは都市部の方々に来ていただいて、田んぼのオーナーになっていただいて、稲刈り体験、田植え体験、それから、つくったお米を味わっていただいて買っていただくということで、都市部との交流も力を入れて密にしていきたい。こういったものが消費拡大と地域ブランドの向上に役立つ。

それともう一つは、中山間山室集落協定があります。中山間直接支払制度、それを活用させていただ

ております。水路も立派な水路がありまして、それを地元の人たちに組合を組んでいただいて、そこで水路を管理していただきます。それと非農家の方、それから、協定参加者、山室区という自治区、そういった方々にも猪鹿柵の管理をしていただく。それから、地域の農業振興センター農家組合、そういったところと農業生産活動継続維持、多面的機能増進、こういったような形で全ての組織を立て直して、関連を設けて何らかの役割を担っていただくということで、できるだけ多くの方に農業に携わっていただくという仕組みをつくっております。

では、実際、農村地域の構成はどう考えるかと申しますと、個別の自立経営した農家に来ていただいて、我々の支援するところで農家をやっていただく。自立経営した人たちが集まって、農事組合法人のようなものを組織して地域を守っていく。その中には非農家の人たちも入っていただいて、みんなで地域を守っていきましょうという取り組みでございます。

最終的にビジョンですけれども、みんなの田舎ということで、都市部との交流・発展、田舎体験型の事業をつくっていきこうということで、そば、小麦、飯米、園芸作物、酒米、市民農園、ジビエ、釣り・川遊び、水生動植物、景観、それから、滞在施設、既存民泊、農家民泊、自炊宿泊、日帰り施設、これらを全て地域のアプリケーションと捉えて、アプリケーションをどんどん活性化していく。今現在、ここまでまだ至っておりませんが、仮定でございますけれども、これをビジョンという形で目指して取り組んでいく。

とにかく法人としての義務というのは、農地を守っていく、農地を守り、イコール地域を守っていく。その地域、当然、中山間で生産力が非常に悪うございますので、平場と比べるとどうしても負ける、そういうことから、地域全体をまるごと商品化して勝負するというところで、お手元の資料にも地域利用型農業ということで、それを無理なく長く続けていくということで活動しております。

以上でございます。

(小林副議長)

ありがとうございました。

では、次に、高遠第2第3保育園と地域の未来を考える会 会長の伊藤岩雄様、お願いいたします。

(高遠第2第3保育園と地域の未来を考える会会長)

皆様こんにちは。

高遠第2第3保育園と地域の未来を考える会の会長の伊藤と申します。よろしくお願いいたします。

私ども高遠第2第3保育園と地域の未来を考える会という非常に長い会の名前になっていますが、この高遠第2第3保育園というのは、第2保育園と第3保育園が合併してできた保育園で、今も高遠第2保育園、第3保育園という名前はそのまま残して、こういう形でしております。

今現在、高遠第2第3保育園ですが、平成30年、今年度の園児数が27名ということでやっております。それから、信州型自然保育、やまほいくの認定園ということで活動をさせていただいております。

まず、この会の発足の経過から御説明をしたいと思いますが、平成27年6月30日の発足となります。こ

の会の発足に当たりましては保育園の園児数が非常に少なくなって、保育園の維持が難しいということで、市のほうから指示がありまして、定員の半数を2年間割ると休園ということで、それが5年間続くと廃園という基準がございまして、それに抵触するというので市のほうからお話がございました。

保育園がなくなるということはひいては小学校の存続にもかかわってくるということで、保護者の皆さん、それから、地域の皆さんで大変危機感を持って結成いたしました。28年3月に一度その基準をクリアしたということがございまして、保育園ばかりではなく、地域の未来を考えていこうということで、高遠第2第3保育園と地域の未来を考える会ということに改称いたしております。

会員構成ですが、地域の有志の皆さん、それから、保育園の保護者会、こういう方たちが中心になっております。また、長藤、三義、藤沢の3地区の区長さん、それから、民生児童委員さん、そのほかいろいろな団体の方々に御参加をいただいております。

今まで行ってきた主な活動につきましては、園児の確保、それから、移住定住を促進するというので、こういった事業、それから、保育園との連携、保育園の環境整備、それから、毎年行っているのですが、市長との意見交換会、それから、時に応じて市議会との意見交換等もやらせていただいております。また、長野県の中島副知事をお迎えして、中島副知事と語ろう信州やまほいくということで御講演をいただいたり、意見交換したりということでやっております。

また、銀座NAGANO信州やまほいくセミナーということで行っております。

今お手元にお配りさせていただいているのですが、移住カタログを作成させていただいて、広く移住を希望される方々にお配りしているということになります。陰のほうでちらっと見たら、後で御説明いたしますが、伊那デザインプロジェクトというのもございます。

私たちの地域ですが、伊那市の北東部に位置しておりまして、一番遠いところだと市役所から約40分から50分くらいかかるのかなということです。この藤沢、長藤、三義地区、3地区で何かいいことがないかということで、会のほうで考えまして、今3地区を総称して奥高遠というふうに言っております。

世帯数ですが、ここにあるようにこんな感じでございます、高齢化率が38.4%で非常に進んでいる地域になっています。

これは新聞記事で見ていただきたいのですが、これが最初にきっかけとなりました保育園の存続の危機ということで、「考える会」が発足する直前のものです。

次に存続を考える会が発足いたしまして、保護者や地域の皆さんが集まって設立総会を開いて、会の発足ということで活動を始めました。

会員の皆さんの努力とかいろいろありまして、休園回避へということになったのですが、これは次年度に入園するお子さんがいらっしゃる御家庭を1軒1軒訪ね歩いて、ぜひ第2第3保育園へということ、それから、この地区から他の保育園へ通っている方がいらっしゃいますので、その方たちにもお願いをして、高遠第2第3保育園に子供を入れてくださいというようなお願いを1軒1軒やるという活動をしてまいりました。それが実りまして、基準はオーバーして、休園は避けられるということになりました。

この地区は先ほど申し上げましたように高齢化、それから、少子化が進んでおりまして、地区の子供たちだけではとても保育園の存続はやっていけませんので、移住者受け入れに本格的に力を入れるというこ

とで空き家探しをスタートいたしました。

これが一番最初にこちらへ移住してきた方です。

これは、先ほどお話をいたしました中島副知事と語ろう信州やまほいくということで、そのときのチラシになります。

これは、中島副知事も実際保育園の裏山、子供たちが散歩しているところを一緒に行っていただきまして、その後意見交換会というようなことでやらせていただきました。

次は、しあわせ信州やまほいくセミナーということで、これは銀座NAGANOのほうでやらせていただいたのですが、「くらしてごらん子育てささえる奥高遠」というのをテーマにいたしまして、保育園の紹介、移住してきた方たちの体験談、それから、これから移住してくるような方たちの意見を聞きたいということで行いました。実際に体験保育ということで、子供たちが山から拾ってきたものを使って、子供たちが保育園でつくっているのですが、いろいろなものをつくって、これは12月だったものですから、クリスマスオーナメントをつくるということも行いました。

これがそのときの写真になります。

これがそのときの記事になります。

これが事例を発表しているところです。

これが移住者の皆さんが体験談をお話をしています。

こういった形で、お子さんを連れて参加してくださる保護者の方もいらっしゃったりして、これがオーナメントをつくっている実際の場面です。

これは、皆さんのお手元にある「すみかたろぐ」ですが、このカタログは全部会員の手づくりということになりまして、写真、それから、編集、取材、全部会員がやりました。製本と印刷だけは業者をお願いしてありますが、ほとんど手づくりでつくったカタログになります。

先ほど申しましたが、去年はヒツジ3頭を保育園の園庭に放しまして子供たちと触れ合っていたくという活動もしております。

これも馬耕の体験ということで、近くの農家さんをお願いして体験させていただきます。

これが今、会のほうで力を入れて取り組んでいる事業ですが、伊那デザインプロジェクトと言いまして、昨年から東京芸術大学、それから、伊那市、信州高遠美術館、それから、高遠第2第3保育園、この連携によって、奥高遠の未来をデザインして、また魅力ある地域にしていきたいということから、この地域を全国に発信していきたいということで取り組んでおります。一過性の大きなイベントを行うのではなくて、地域に根差した発想を長年にわたって続けていきたいと考えております。

これは29年のワークショップで、「食」をテーマにしまして、ワークショップで木をけずろう、はしをつくろうということで、地元産の木を使ってはしと器をつくって、地元の郷土料理を味わうというようなイベントを行いました。

これが今、活動の拠点にしています長藤地区にあります古民家です。後ろに張ってありますお品書きですが、これは昨年やった食のときのお品書きになります。

今回のこれがINA ART NIGHTというプロジェクトになりまして、田んぼとか畔とかに稲を

かけるさおをつくりまして、ストローを通してそれに光を当ててというようなことで、これは今、準備の段階です。こういった形でストローをずっと並べて光を当てるということになります。

これが夜、これは地域の皆さんに活動をしていただきたいということで一般公開させていただいています。これもそうです。多くの皆さん、カメラを持って御来場いただきます。

もう一つ、子供たちを対象にした中で、「手のなかのかたち」というのがありまして、これは保育園を使ってやったものですが、石膏を使って、その石膏を風船の中に入れて手でぎゅっと握る、手の中の形を取ろうということでやったものです。色のついているのが風船に入っているもので、白のは出したものです。子供たちは非常に生き生きとした表情で取り組んでいただきました。

これが、家庭のほうで用意していただきました箱でございまして、それに子供たちの造った作品を入れてお渡しするというようなことをいたしました。展示も保育園の裏山を使って展示するというので、これも一般公開をして多くの皆さんに御覧いただきました。

これからこういった取り組みを末長く続けて、地域の活性化につなげていきたいと考えております。以上です。どうもありがとうございました。

(小林副議長) ありがとうございました。

次に、新山定住促進協議会 総務部長の竹村和久様、それに新ママクラブ会長の井上美保様、よろしくお願いたします。

(新山定住促進協議会総務部長)

こんにちは。新山定住促進協議会の竹村です。

少子高齢化による保育園・小学校の存続の危機に立ち向かった新山地区の活動を御紹介いたします。

新山地区は、上新山区と北新区、2つの区からなり、住民約700名が標高700メートルから1,000メートルほどのところ、約240戸に住んでいます。地理的には伊那市のほぼ中心に位置します。

昭和22年、子供がいる、いないに関係なく、地区住民全戸がPTAに加入し、活動してきました。地域のみんなで子育てをするのが当たり前になってから何と70年、しかし、平成21年には園児の減少から新山保育園は休園となり、当時新山小学校は小規模特認校となりました。

平成18年から立ち上がった保育園・小学校を考える会の5つの部会の中で、保育園休園後に特に力を入れたのが女性委員会です。あちこちの保育園に散らばっていた保育園児のお母さんたちの交流の場をつくりました。

平成26年、地区内の園児の増加と地区外から小学校の通うお子さんの御兄弟が新山保育園への通園を希望してくださり、5年休園していた保育園が再開できました。この年に伊那市の田舎暮らしモデル地域に指定され、行政とも協働して活動するようになりました。

平成27年から考える会は新山定住促進協議会として新たなスタートを切りました。

平成29年には長野県から移住モデル地区に認定していただいております。

現在、新山定住促進協議会は総務部、子育て応援部、住まい整備部の3部構成で、保育園・小学校を守

り、在外者、移住者ともに安心して子育てできる環境づくりに取り組んでいます。

保育園周辺は園庭として、また新山全体を小学校の校庭として活用していただけるよう、トンボの楽園や三界山登山道などの地域団体が環境整備活動を盛んに行っています。

上伊那農業高校とも協働し、「でいあでいあ」という鹿肉商品をつくり、新山のパン屋さんで通年販売をしています。

さらに新山で子育てを楽しまれているお母さんたちが一つになって活動するサークルが新ママクラブとして誕生しました。この会の会長であり、Uターンをしてくださった井上美保さんにより、新ママクラブの紹介とUターンに至った経緯を御紹介いただきます。

(新山定住促進協議会新ママクラブ会長)

こんにちは、ただいま御紹介いただきました井上です。よろしく願いいたします。

Uターンした経緯からお話をさせていただきます。

私は新山で生まれ育ちました。社会人になり、外の世界を見てみたく10年ほど地元を離れていましたが、将来を考えるようになり、昔から変わらない野山の風景、ゆったりと流れる穏やかな時間がやはり好きで新山に戻ってきました。そして縁があって、同じ新山出身の主人と結婚しました。しばらくは市内のアパートで暮らしていましたが、長女、長男が生まれてから、子育てのこと、子供の成長を考えて、5年前新山に家を建てました。現在は3人の子供に恵まれ、5人家族となり生活しています。

我が家は長女が保育園に入園のときに、入園していた保育園が、先ほど竹村さんからもお話にありましたように地域の皆さんの活動により再開し、タイミングよくありがたいことに入園することができました。そこで知り合ったママたちとも親しくなり、せっかくの御縁を大切にしたいと思い、新山保育園・小学校に通わせている子育て世代を中心としたサークル、新ママクラブというものを地域の方にも相談させていただき、当時の地域おこし協力隊のカネコさんにも協力してもらい、4人で2年前に立ち上げました。

メンバーは新山在住者、移住者はもちろんのこと、地区外から通ってきてくれる方合わせて現在は25名になりました。茶話会を中心とした緩いサークルですが、集まれるときにお茶したりおしゃべりして、とにかく笑いが絶えません。何でも相談できる気の合う仲間と囲まれて楽しく過ごさせていただいています。

また、休日にはパンプ、子供たちも一緒に楽しめるようなイベントをやっています。カレーパーティーやお楽しみ会、バターナイフづくりをして、そのバターナイフを生かせるように県内の牧場へ行ってバターづくり体験をしたり、メンバーの旦那さんをお願いしてそば打ち体験などをしました。地元のおばちゃんたちにお声をかけていただき、地域のイベントで出している五平餅づくりのお手伝いも毎年恒例になっています。今後は新山秘伝の名物生姜餅も教えていただきたいと思っています。そして保護者会、地域の方たちと一緒に市長さんとの座談会なども参加させていただき、保育園建て替えの要望などを出させていただきました。

新ママクラブは発足して3年目のサークルですが、ママたちのコミュニティーの場として、横のつながり、縦のつながりを大切に、地域の方たちがつないできてくれた物や心を私たちが受け継いで今後も活動していきたいと思っています。

以上です。ありがとうございました。

(小林副議長)

ありがとうございました。

次に、諏訪形区を災害から守る委員会 副委員長の酒井卓美様お願いいたします。

(諏訪形区を災害から守る委員会副委員長)

諏訪形区の酒井です。

伊那市の最南端、南の玄関口諏訪形区を災害から守る委員会の発表をいたします。

最初に、映像をお願いいたします。(映像上映) これで映像は終わりですが、ちょっと音が出ませんでした。

平成18年に上伊那と諏訪地方にすごい災害が起き、平成18年7月豪雨と命名されました。私たちの諏訪形区も土石流が発生して、沢渡の殿島橋が落橋、それから、前沢川がやはり土石流で大変な被害に見舞われました。そのとき伊那市役所はすぐ後災害対策本部を立ち上げたのですが、現地災害対策本部として諏訪形区も復旧が始まりました。

その対策本部の解散というか、終わった時点で、皆の気持ちが、県は治山工事を、私たちにできることはないかということで植林活動をしてまいりました。最初はどんぐりを使うことから始まるのですが、そしたらイノシシに荒らされてしまって少し失う。平成22年は念願の植樹祭をしました。地元の議員さんやいろいろな方々とともに、蒔いた千本中、七・八百本植樹したのですが、それも動物の被害に遭って、これはサル引き抜きです。聞いてみたら、サルはクヌギの根っこがおいしくて食べるそうです。全て千本を失いました。

それで始めたのが保育ブロックです。これで直根を育てる。四隅に溝が切ってあります。ここに直根が入ります。これは回して見てください。こういったものを使いながら、仕切り直しということで始めました。今すくすくとクヌギも育っていますし、ケヤキも育っております。

その保育ブロックにしたのはなぜかという、直根がないと防災にならないんです。ですので、ブロックに植え付けをするわけです。苗木屋さんの苗木というのは1年たつとグラウンドから大体10センチか15センチのところまで切ります。これが上伊那地域振興局、まだ昔の上伊那地方事務所と書いたステッカーが貼ってある標本ですが、これにも同じことが書いてあります。ちょっと見えないかと思いますが、これもお返ししますが、クヌギはグラウンドから15センチくらい、コナラが10センチくらい、こういうような標本をいただいて、そのまま植林したものが成長したわけです。

今お配りしたので、それを見ていただくとわかりますが、つい先だって、諏訪地方でカラマツの、この間新聞に出ていました、根返りというのですか、ぶっ倒れています。これは間伐をすると仲間がなくなっちゃって風通しがよくなるので倒れています。昭和30年代から始まった官行造林、地方によっては拡大造林とも言います。これがちょうど早いところで伐期を迎えてきています。これからどうやって伐採していくのかとか、こんな問題も出てきます。

私、山を歩いてみました。直根ってどういうものかわかりますか。直根を見たことがある人はいますか？何人かいますね。直根は林道沿いの法面だとか、ちょっと危ない急斜面だとか、そういうところに行くで見られます。

右がカラマツの直根です。左側が松です。これが移植してあります。こちらは右側がクヌギです。左側がコナラです。こういう直根が危ないところへ行くと見られます。危ないところと言うと急傾斜です。直根のない、根がない木は全てこれが倒れます。どういった対策がいいのかをみんなで考えていかなければなりません。

今、国の交付金をいただいてやっていたのですが、現在は使われておりません。森林山村多面的機能発揮対策事業と言います。林野庁です。それは再申請が可能です。可能ですが、同じ林班、同じ土地をできないのです。私たちが植林しているのは草刈りもありますし、補植もありますし、野生動物対策もありますので、最低で4年くらいのおこぼれが必要なんです。ですので、できるならば、県の皆さんと相談していい対策ができればと考えております。

これからも災害に強い里山づくりに対して頑張っていくつもりです。よろしく願いいたします。

(小林副議長)

ありがとうございました。

リハーサルときは全く問題がなかったわけではありますが、大変土壇場で失礼いたしました。

○副市長あいさつ

(小林副議長)

御来賓の伊那市の林副市長がおいでになりましたので、御挨拶をお願いいたします。

(林副市長)

皆さんこんにちは。

遅れまして大変申しわけございませんでした。またその上、市長が来てお礼の挨拶もしなければいけないところでもありますけれども、かわって副市長の林と申しますけれども、お礼の御挨拶をさせていただきたいと思います。

本日は、長野県議会の鈴木議長さんを初め広報委員会の議員さん、また地元の議員さんには「こんにちは県議会です」を伊那市で開いていただいて感謝申し上げます。

地方を取り巻く状況でありますけれども、言うまでもありませんけれども、少子高齢化、また、首都圏への一極集中で企業の皆さんは人材確保が大変難しい。その上後継者不足というようなことであります。過疎も進んで、物流の関係、買い物弱者、それから、保育園が今、話がありましたけれども、人が減っているというようなことで、それぞれの地方自治体については悩みが多く、この解決のために国の地方創生事業だとか県の支援策を取り入れながら、それぞれ活動しているところでもありますけれども、そういった

活動においても今、事例発表がありましたように、直接市民の皆さん、また団体等が主体的に動くことで解決が進むということでもあります。そういったことが非常に重要だというふうに思われております。

私から今の事例発表の後、懇談会のことについて内容を話すということは、もう発表がありましたので、ありませんけれども、この発表された4団体につきましては、伊那市の他の地域の模範でもあり、リーダーでもあるところでありまして、これからますます活躍をお願いするところであります。

今日御参加4団体の皆様には、今日の意見交換会の場を活用していただいて、ますます発展していただけるようお願いをするものであります。また、広報委員会の県議の皆さんにおきましては、地域の課題、そして悩みをお聞き取りいただいて、御助言、また今後のお力添えをいただければ幸いですので、よろしくお願ひいたします。

結びになりますけれども、本日の「こんにちは県議会です」がよりよきものになりますよう、また、県議会議員の皆様のみならずの御活躍で長野県の発展することを御祈念申し上げまして、簡単でありますけれども、開催市のお礼の挨拶とさせていただきます。

本日はよろしくお願ひいたします。

(小林副議長)

林副市長、ありがとうございました。

○意見交換・懇談

(小林副議長)

それでは、ただいま発表いただきました内容を参考にしながら、グループごとに意見交換を始めたいと思います。

グループごとに発表に関する御意見及び活力ある地域づくりに関するその他のことなど自由に意見交換をお願いいたします。

報道や傍聴の皆様は、自由に会場内を移動していただいて結構です。ただし、意見交換の支障にならないよう御注意をお願い申し上げます。

それでは、各テーブルで意見交換を始めてください。お願いします。

(意見交換・懇談)

○議員感想発表

(小林副議長)

それぞれ各グループちょうど盛り上がってきたところで時間がなくなってしまったのではないかと思います。では、それぞれのグループから代表いたしまして、出席議員から意見交換の内容や感想の発表を

お願いいたしたいと思います。

まず、一番最初に、農事組合法人山室のグループから、佐々木議員、お願いいたします。

(佐々木議員)

山室の勉強をさせていただきました。本当にすばらしい取り組みをしているなど感じさせていただきました。しかし、いろいろ悩みもあるようで、高齢化だとか、後継者がいないとか、いろいろな話もあった中でも、うちは後継者がいるよとか、そういうことで、中山間地の山を、また地域を、また農業を守っていく、こういうことで大変すばらしいなと思いました。

私たちも考えていかなければならないのは、長野県は全部中山間地なものですから、その中でどうやっていろいろな補助金、いろいろな活性化策をともにやっていかなければならないのかということを感じさせていただきました。

また、空き家がこれから5年、10年すると、長野県でも30%は空き家が出るわけございまして、その空き家対策というものをどういうふうにして、その空き家をうまくリフォームして、都市と農村との融合というものをやっていくか、そこも一つの課題ではあるかと思っておりますので、これはしっかり空き家対策というものをやっていかないと廃屋になったらどうなるのか。そして相続もされないような空き家、これをどうやっていくのか。死んだおじい様から名義を変えないままずっときている、そういうところをどうやっていったらいいのか。これが長野県だけではできない問題だと感じておりますので、国の国会議員の先生方とも打ち合わせをしていながらやっていかなければならないのかな、こんなふうに感じさせていただきました。

また、一人で野菜をつくっているより、みんなで野菜をつくったほうが楽しいというような御意見もありまして、やはり一人でやっていくより、農業法人のほうでみんなで一緒にやっていったほうが楽しいというような意見もございまして、これはいいことだな、こんなふうに感じた次第でございます。

以上でございます。

(小林副議長)

次に、高遠第2第3保育園と地域の未来を考える会のグループから、小林伸陽議員、お願いします。

(小林伸陽議員)

高遠第2第3保育園を存続させようという取り組みを通じて、それだけではなくて、地域の皆さんのつながりやその地域にとって大事な課題をさまざまな形で研究しながら活動を進めているという点では、中山間地の今後の活動を進めていく上で大変参考になりました。

この中山間地への移住の希望も相当たくさんあるという実態も報告もされましたし、そのネックになっているのが住宅の確保と空き家だけで対応できるのかという思いもしていますけれども、行政が本気で移住政策を進めるという上では、空き家を行政の責任で貸し出せるような仲介をして対策を講じるということが一つ大きなテーマともなりました。

それと、これは私の意見ですけれども、本気で移住政策モデル地域というなら、やはり行政が移住促進住宅みたいなものをつくってやるのが大事だという点も今後検討すべき課題かな。

それから、もう一つ大きな課題として議論がされたのが、通学・通勤、子供たちが大変遠距離通学を余儀なくされるのが当然な地域であるのですが、これにかかる費用も大変大きくて、この子供たちの通学や通勤、こういうものへの特別の配慮がないと、なかなかそういう中山間地で生活をしていくという上では非常に大変な課題だということも痛切に感じました。それらの課題をどうやってクリアしていくかということが中山間地で本当に魅力ある生活と安心して暮らせる地域を組み立てていくという点では大きな課題かなと思いましたし、保育園や学校も子供が少なくなれば、閉園し、なくしてしまうという行政のあり方も問われなければならないのではないかというふうに思います。以上です。

(小林副議長)

次に、新山定住促進協議会のグループから、堀場議員、お願いします。

(堀場議員)

いろいろな意見が出ました。私も大分勉強させていただきました。70年前から全戸がPTAということで、その当時のことがありまして、今、全戸でPTAとなると多分できないのかな。歴史的なことはこれからも引き続きそのことによって地域が活性化していくのか。

ただ、一つ、先ほど小林議員からもありましたように、住宅が不足しているということで、空き家がなくて、移住モデル地区に認定されるということで、県としてもお試し住宅みたいなので、一、二年住んでみて、最初から借り入れして住宅を建てるというのはちょっと無理なのか。そういうところで地域に交流しながら、やはり住んでみようという、そういう住宅が必要なのかなというのと、保育園が休園になった、復活したんですけれども、地元だけではなくて、近隣のほうからも通ってくる園児さん、御家庭もあるということで、その辺のことの対応も一つ問題なのかな。なおかつ小学校では学年によって人数がばらつきがあるので、それをある程度平準化できるようなことも含めると、お試し住宅というか、そういうことが必要なかということがありました。

私の生まれ育ったところも同じような山のところなので、地域のいろいろな課題とリンクしながら勉強させていただきました。ありがとうございました。

(小林副議長)

最後に、諏訪形区を災害から守る委員会のグループから、向山議員、お願いいたします。

(向山議員)

この諏訪形区から災害を守る委員会というのは、自分たちのまちは自分たちで守ろうという趣旨のもとで今、御苦労いただいていることをお聞きをしておりました。

実は私は、この諏訪形の災害の問題は自分から言うのも変ですけれども、災害が起きたときに県の林務

課と一緒に災害地の上流まで上がりました。先ほど写真がありましたが、倒木の下をくぐったり、倒木を越えたりして、現地を見させていただき、その後、あそこにどんぐりを植樹したのですが、わずかな期間の間にサルに全部抜かれてしまったということで、切ない思いをしたことも今、思い出しながら、いろいろ経過をお聞きしてまいりました。

この諏訪形地区を初めとして、西山地区は18年災害のときには大変大きな災害に見舞われたわけですが、たまたま諏訪形区の場合は中央道まで距離が長かったということがありますが、前沢川のほうは直近で中央道が走っていた。そこへ20メートル、30メートルの流木が全部中央道で止まったというのは、逆にいうと中央道が堰堤役を果たしたというふうな典型的な災害の時期に私も現地に立ち合わせていただいたことを思い出しております。

その後、こうして長きにわたって諏訪形区を災害から守る委員会として、皆さん方が地域活動として今日まで進めておりますが、そんな中でも毎年何人かは新しい区民の皆さん方がメンバーに加わるということで、やはり地域の皆さんが総じて参加をして、実感としてそこで自分たちが活動して地域を守っていくということは、今あちこちで言われているようにまさに自分たちのまちづくり、自分たちの地域づくりは自分たちがやるんだという立場に立って、こうした災害というものを基軸にして活動されているということに対して私も大変すばらしいというふうに思っております。

そうした中で、県がどういう形でお手伝いができるのか、また、皆さん方の期待に応えられるのかというのがこれからも問題になってくるわけでありますけれども、ホームページのドローンで撮影したのも県の林務課の職員がドローンで撮影されたようでございますし、県としても今、森林税の使い方についてかなり柔軟性を持って、もっと森林税を使っていくべきではないかという中で、この諏訪形区の問題も治山事業などがそうした機械類だとか、そういった作業を進めていく、また、治山事業のかかわる周辺の問題を含めても、こういった森林税が有効に使えれば、もう少しこうした活動がさらにいい形で災害を守る成果もあらわれるのではないかというふうに思っておりますので、私どもそんなことも県のほうにきちんとお伝えをして、そういった期待に応えていかなければいけないのかなということも痛感をさせていただいたところであります。

そんな意味で、今の言われているまちづくり、私は、諏訪形区を災害から守る委員会というのはまさにその典型的な地域づくりで、自分たちの地域を守ろうという活動だなということを実感した次第です。以上です。

(小林副議長)

ありがとうございました。

それでは、時間が限られているわけでありますが、傍聴された皆様からの御質問や御意見を頂戴いたしたいと思います。

なお、御質問の内容によっては本日御回答できない場合もありますので、御容赦願いたいと思います。

恐れ入りますが、発言される方は挙手をお願いいたします。マイクをお持ちいたしますので、お名前をおっしゃってから発言をお願いいたします。

それでは、御意見、質問のある方いらっしゃいましたら、お願いします。

(意見、質問なし)

よろしゅうございますか。

さまざま今日御参加いただいた方にはまだ言い足りないこともたくさんあるのではないかというふうに思いますが、これは議会の広報活動の一環として行っているものでございますので、本来であれば、大勢の皆さんから意見を頂戴して、県議会の活動に生かしてまいるということが本旨でございます。まだまだ伺っておかなければいけない意見が多々あるかと思いますが、これで意見交換を終了させていただきたいと思えます。

○議長所感

(小林副議長)

最後に、鈴木県議会議長から今回の意見交換を踏まえての感想とお礼の御挨拶を申し上げます。

(鈴木議長)

どうも皆さん、今日は貴重なお時間、それぞれ今日4つのグループ、団体の皆さんからいろいろな活動状況、取り組み状況の御説明をいただきました。今、広報委員長のほうから、実は議会の広報活動の一環としてという説明がありました。ただ、そうは申しまして地元の議員、あるいは広報委員、私どもを含めて、広報だけではなくて、広聴という意味もその根底にはあるんだということを御理解いただきたいと思います。

長野県77市町村、これは全国的に共通することですが、少子高齢化が進んでおりますし、相互に抱えている課題も共通する課題が多くございます。そういった状況の中で、今日お見えの皆さんの取り組みは、多分に行政に頼ることなく、それぞれの地域の皆さんの地勢、文化、歴史、地域要件を十分踏まえた上で創意工夫をこらして取り組んでいらっしゃるグループであるな、そのように私は受けとめております。

基本的には教育問題を含めた通学、さらに加えて農業基本計画、あるいは高齢者福祉の施設等今日的な課題は一義的には基礎自治体でやられております市町村であります。先ほど伊那市の副市長さんがお見えになっておりますけれども、では、県として何ができるのか、市町村の皆さんをどのように後押しができるのか、そしてまた国の諸事業、縦割り行政の中で、それぞれの市町村が抱えている課題に対しどんなメニューが提供できるのか。と同時に、今日お見えの皆さんのグループに対して、国、県がどのような後押しができるのか、そんなことも含めて勉強させていただき、これからも適正な対応ができるような一環として行われているのが会場、地域を毎年借りて行っている「こんにちは県議会です」ということは御理解いただけたらなと思えます。

限られた時間ですから、隔靴搔痒(かっかそうよう)、十分直球勝負でお互いのキャッチボールが不足する面もあったかと思えますが、これからの地域社会の中で皆さんのような活動が、地域全体がこれ以上落ち込むことなく、現状に携わり、時には前向きに新たな道筋が開かれるのではないかというようなことを

御期待申し上げまして、本日の御参会の皆さんの貴重なお時間、そしてまた私どもに対する提案された御要望等につきまして感謝を申し上げ、皆さんのこれからの御活躍、御健勝を重ねて御期待申し上げまして、議長の立場から御礼に変えさせていただきたいと思えます。今日はどうもありがとうございました。

(小林副議長)

鈴木議長、ありがとうございました。

○閉会

(小林副議長)

今日は4つのグループから意見発表していただき、その後意見交換を行わせていただきました。

それぞれいただきました意見、しっかりと吟味をして県議会の活動の中で活かしてまいりたいと思えますのでよろしく願いいたします。

以上をもちまして、『「こんにちは県議会です」伊那市』を終了いたします。

ご参加いただきました皆さん、そして、傍聴いただきました皆様方に感謝を申し上げます。誠にありがとうございました。